

福岡県太宰府市の九州国立博物館（九博）で上記のシンポジウムが開かれました。



↑太宰府天満宮の参道を通り、光のトンネルを抜けると、ガラスの壁面で覆われた巨大な建物が出現します。手前に並ぶ大きな蓮の鉢は九博のボランティアが設置してくれたものだそうです。

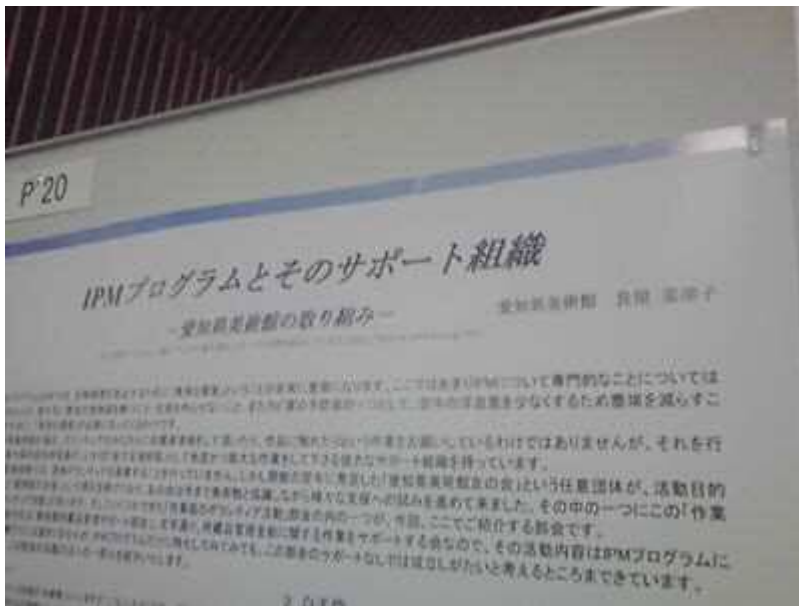


↑博物館内のミュージアムホールという立派な会場で行なわれました。

今回で3回目のシンポジウムで、過去2回はIPMの草分け的存在の保存担当N.N.さんが参加しましたが、今回は私が行ってきました（日程が重なったため「愛知トリエンナーレ2010」の開会に立ち会えなかったのが心残りです）。IPMという言葉はまだWHOのように市民権を得ていないので、何のこっちゃわからんという方がほとんどだと思います。気になる人はN.N.さんが書いた8月18日の裏方通信番外編のブログを読んでください。



↑エントランスホールでは、シンポジウムのタイアップ企画で「IPM市民フォーラム」というポスターセッションが行なわれました。



↑上の写真の拡大（愛知県美術館の事例）です。

初日は市民報告会として「愛知県美術館友の会サポート活動と IPM プログラム」という演題で、愛知県美術館友の会所蔵品管理サポート部会の代表お二人と一緒に当館の事例を発表しました。



↑友の会の武藤さんです。



↑友の会の伊藤さんです。

愛知県美術館ではボランティア組織はないけれど、友の会という組織があり、その会員によるモニター部会と所蔵品管理サポート部会という部会が美術館を支援してくれており、これらサポート部会がいわばボランティアに代わるものとして活動していること、後者の部会の活動の中ではIPMに関わることが行なわれているといった内容です。予行演習もせずにぶっつけ本番で臨んだのですが、予定時間ぴったりに終わったそうで何よりでした。

(H. F.)



↑おまけ：太宰府天満宮です。頭が良くなりますように。



↑もひとつおまけ：町で見かけた古い看板。カンコーって菅公のことだったのか。納得。